

第4学年 社会科学習指導案

日 時 令和3年 11月10日 (水曜日) 5校時 (13:55~14:40)
学 年 第4学年 (26名)
授 業 場 第4学年竹組 教室
指 導 者 谷口 久美子

1 単 元 地震にそなえるまちづくり

2 単元の目標

- 自然災害から地域の安全を守るための諸活動について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 自然災害から地域の安全を守るための諸活動の特色や関係機関や人々の協力などに着目し、取組の意味を捉え、地域に見られる課題を把握して、その課題の解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現できる力を育てる。
- 自然災害から地域の安全を守るための諸活動について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

3 単元の評価規準

知識・技能	○地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解している。 ○聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、まとめている。
思考・判断・表現	○過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現している。 ○地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりして表現している。
主体的に学習に取り組む態度	○自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ○学習したことをもとに、地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをすることなど、自分たちにできることを考えようとしている。

4 単元について

(1) 子どもの実態と培いたい資質・能力について

本学級の子どもたちは、主体的に調査活動を行うなど、社会的事象についての関心が高く、解決したことから新たな問いを見いだすなど意欲的に学習に取り組む姿が見られる。また学んだことをもとに、考えたり判断したりする力も育ってきている。

本単元では、「自然災害から人々を守る活動」について学習を行う。過去に県内で発生した自然災害に着目し、今後想定される災害に対して関係機関がどのような取組を行っているのかを追究していく。徳島県では現在、南海トラフ巨大地震の発生が危惧されている。南海トラフ巨大地震の発生確率は、「30年以内に70~80%」と言われており、高い確率で起こり得ると想定されている。しかし、アンケート調査から、今後想定されている災害について切実感をもっている子どもは少なく、過去に徳島県で起こった地震災害については、知らないというのが現状である。また、子どもたちの住む板野町は、海に面した地域ではないため、津波の被害のない地域であり、地震や津波の被害を想定し、日ごろから必要な備えをするなどの自分にできることを考えようとする意識も低い。

そこで、今後起こり得る災害を想定し、町や県、国などが行う「公助」、関係機関と地域の自主防災組織や、消防団などの協力による「共助」、自分たちで主体的に災害に備える「自助」の関係性を捉え、それぞれが協力して取り組んでいることを捉えさせる。そして、その中でも、特に「共助」「自助」に視点を当て、地域の一員として協力し、自分の命を自分で守れるようにするためにはどうすればよいかなど、自分たちにできることを考えたり選択・判断したりできるようにさせたい。さらには、選択・判断したことを自分たちの未来に向けて考え続けていく力を身に付けさせたい。

(2) 教材について

徳島県で現在、問題となっているものに、南海トラフ巨大地震や中央構造線活断層を震源とする直下型地震がある。

本単元では、今後、想定される災害に対し、県や町、地域などの関係機関が協力して様々な対応や備えをしていることについて学習する。そして、地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることを考えたり選択・判断したりしていく。

その際、教材として取り上げるのが、板野町に新しくオープンした「道の駅いたの」である。道の駅は、広い敷地があり、幹線道路沿いに位置することから、災害時には多くの人にとって避難しやすい場所となり、防災拠点となる重要な役割があると言われている。「道の駅いたの」も地域の防災拠点としての機能する特長をもっており、防災ステーション・耐震性貯水槽・ヘリポートなどの設備が整っている。

本時では、道の駅で行われた「総合防災訓練」を取り上げる。「板野町が、どのような思いで総合防災訓練の参加を地域の人々に呼びかけているのか」を考えることを通して、板野町が住民一人ひとりの防災意識を高めていること、さらに、町の防災避難訓練参加率の低さや阪神・淡路大震災時、救助が行われたもののうち、約97%が共助・自助の働きであったことなどを資料として提示する。そのことにより、板野町が共助・自助の必要性を呼びかけようとしていること、具体的に気をつけていく。また、実際に災害から人々を守る活動に関わる人たちの話や聞くなど、具体的な調査活動を行う。地震の被害を少なくしようとする思いや、安全を守る行動の仕方を考えたり、自分たちにできる備えや行動を選択・判断したりできるようにしたい。

(3) 単元の構造図

〔学習指導要領との関連〕 第4学年 内容(3)

【知識・技能】

- (ア) 地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。
 (イ) 聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、まとめること。

【思考力・判断力・表現力等】

- (ア) 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現すること。

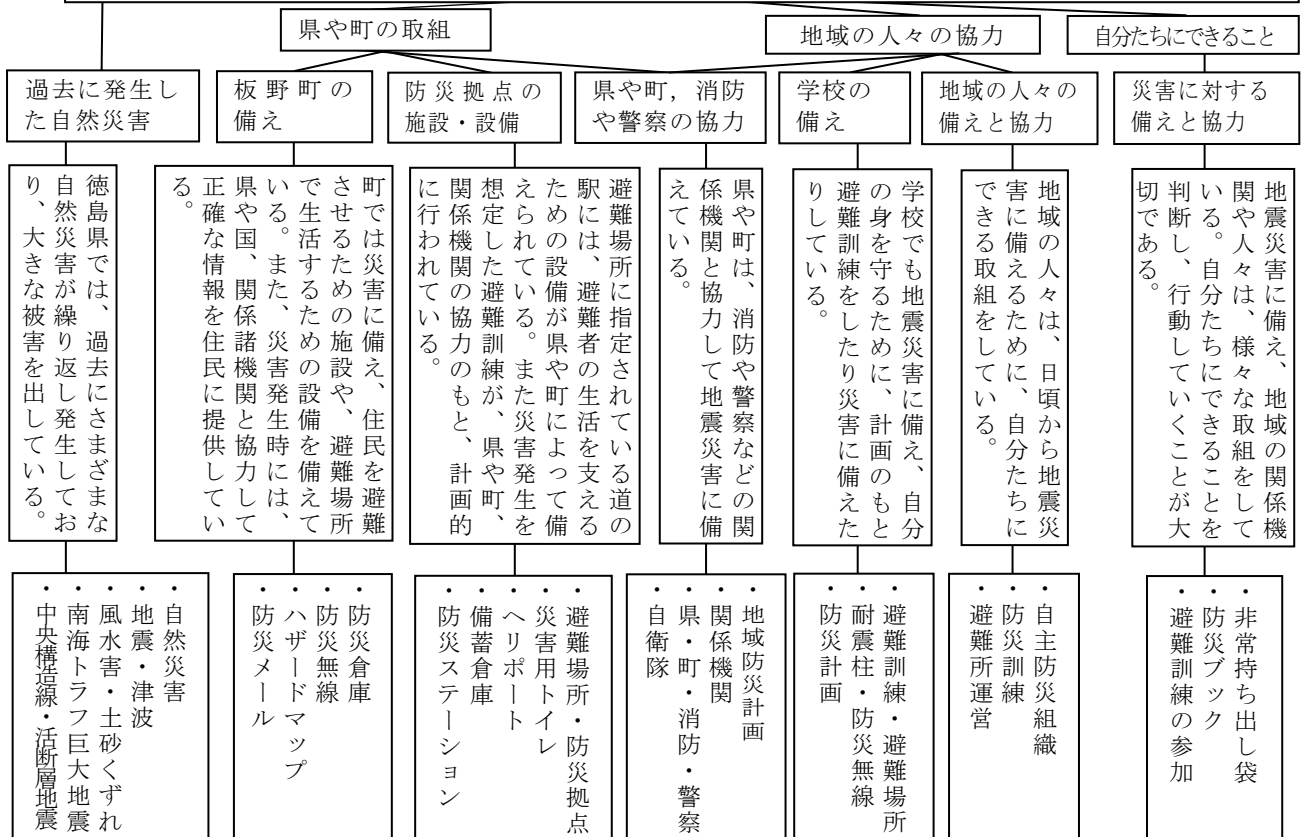
【内容の取り扱い】

ウ イの(ア)については、地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることを考えたり選択・判断したりできるよう配慮すること。

【中心概念】自分たちの地域では、様々な関係機関や地域の人々が協力して地震に備えている。自分も地域の一員として、地震に備えて防災・減災に努めていく必要がある。

過去に発生した自然災害 **関係機関の協力**

【単元の学習問題】地震災害から私たちの生活を守るために、だれがどのような取組をしているのだろう。



5 指導計画 (全 12 時間)

□・・・学習問題 □・・・本時のめあて ◆・・・主な評価 □・・・次時につながる思考 ○・・・指導・支援

段階	活動と主な評価	子どもの意識の流れ	指導・支援	
問題をつかむ	①徳島県ではこれまでにどのような自然災害が多く発生しているのか調べよう。	<ul style="list-style-type: none"> これまでに徳島県でたくさんの自然災害があったんだ。 水害や土砂災害、地震災害があるんだね。 過去に大きな地震があって被害も大きかったんだね。 でもこれから先にも、大きな地震が起こると言われているよ。 私たちの住む板野町には、中央構造線という活断層が通っているんだね。 	(資) 徳島県で過去に起こった自然災害の年表 (資) 自然災害時の写真 徳島県で過去に起こった自然災害調べをし、これからの学習に向けて関心をもつことができるようにする。	
	②自然災害調べから、疑問を整理し、単元の学習問題をつくらう。	<ul style="list-style-type: none"> 大きな地震に対して、徳島県や板野町では備えをしているのかな。 道の駅で総合防災訓練があったように、他の地域でも訓練をしているんじゃないのかな。 火事や事故のときのように、消防や消防団や警察が協力して助けてくれるのかな。 怖い地震災害に備えて、私たちはどんなことを準備したらいいのかな。 	(資) 徳島県での過去の自然災害の被害の状況 疑問を分類・整理することにより、学習問題をつくることができるようにする。	
地震災害から私たちの生活を守るために、だれがどのような取組をしているのだろう。				
調べ方を決める	③学習問題について予想し、調べる計画を立てよう。	<ul style="list-style-type: none"> 学校で避難訓練をしているから、学校でも備えていると思うよ。 総合防災訓練があったから、徳島県や板野町でも大きな災害に備えていると思うよ。 消防のときは消防署や消防団が協力していたから、地震のときも協力しているんじゃないかな。 	(資) 総合防災訓練の写真 (資) 学校での避難訓練の写真 (資) 消防の仕事の写真や関係図 消防の学習や総合防災訓練のライブ放送の視聴を想起させることにより、根拠をもって予想が立てられるようにする。	
調べたしかめる	④家庭では、どのような備えをしているのか調べよう。	それぞれの家ではどんな備えをしているのか調べよう。【A】 <ul style="list-style-type: none"> 非常持ち出し袋があるよ。・うちには用意していないよ。 たんすがたおれないように止めているよ。 物の備えはしているけど、学校のように避難訓練に参加していないよ。大丈夫かな。 学校では避難訓練の他にどんな取組をしているのか知りたいな。	(資) 非常持ち出し袋・L字フック等の写真 (資) 家庭の地震被害の写真 「非常持ち出し袋などの物だけを準備していたら安心かな。」と問うことにより、自然災害に備え避難の計画を立てておく重要性を捉えられるようにする。	
	⑤学校では、どのような備えをしているのか調べよう。	学校ではどんな備えをしているのか調べよう。【A】 <ul style="list-style-type: none"> 防災倉庫や防災無線、耐震の柱があるよ。防災無線は役場から流れてきているよ。学校は避難場所になっているんだね。 学校を避難場所としている他にも、板野町がしていることってあるのかな。 板野町では学校を避難場所にする他にどんな取組をしているのか知りたいな。	(資) 避難訓練の写真・校内の地震への対策 (資) 教頭先生の話・学校の防災計画 学校の防災・減災の設備について、視点をはっきりさせタブレットを用いて調査活動を行い記録することにより、明確な話し合いになるようにする。	
	⑥板野町では、どのような備えをしているのか調べよう。	板野町ではどんな備えをしているのか調べよう。【B】 <ul style="list-style-type: none"> 防災無線やメールで大勢の人に知らせるようにしているんだね。 ハザードマップを作って危険な所を知らせるようにしているんだね。 災害が起こった時は、県や消防署、自衛隊などが協力して助けるって言っていたよ。 板野町と他の機関とのつながりはどうなっているのかな。	(資) 防災倉庫・ハザードマップ・町の防災計画 (資) 板野町役場の西川さんの話 「板野町の備えだけで、安心かな。」と問うことにより、板野町だけでは町民の命や生活は守れないことに気付くことができるようにする。	
	⑦板野町と県や他の機関は、どのように関わっているのか調べよう。	板野町と他の機関がどのように関わっているのか調べよう。【B】 <ul style="list-style-type: none"> 道の駅での総合防災訓練では、徳島県や消防隊、自衛隊が関わっていたね。 でも、自衛隊が助けに来るまでに3時間もかかるんだね。 自衛隊や消防が助けに来るまでどうしたらいいのかな。 板野町の住民はどのように協力しているのかな。	(資) 徳島県の防災計画 (資) 自衛隊到着までの時間を表した資料 「自衛隊や消防隊とのつながりがあったら、安心かな。」と問うことにより、県や他の機関の協力だけでは不十分なことに気付くことができるようにする。	
	⑧消防団・自主防災組織について調べよう。	消防団・自主防災組織はどのような備えをしているのか調べよう。【C】 <ul style="list-style-type: none"> 消防団や自主防災組織があるって役場の人が言っていたよ。 板野町の人たちも、自分たちで命を守れるように避難訓練をしているんだね。 そういえば、道の駅の総合防災訓練に自主防災組織の人たちも参加していたよ。 道の駅の災害への備えについて調べてみたいな。	(資) 自主防災組織の人の話 「自主防災組織の役割って何かな。」と問うことにより、災害が起こったときには救助を待つだけでなく自分たちで助け合うことの大切さについて気付くことができるようにする。	
	⑨道の駅の防災設備や総合防災訓練について調べよう。	道の駅の防災設備や総合防災訓練について調べよう。【B】 <ul style="list-style-type: none"> 道の駅には災害に備えていろいろな設備があるんだね。 訓練には、自衛隊や消防署、徳島県、板野町などいろいろな人が関わっているね。 道の駅は防災拠点となるから、実際に地震が起こったときを想定して訓練しているよ。 板野町の人たちは参加できなかったそうだよ。このままでいいのかな。	(資) 道の駅の総合防災訓練の写真・映像資料 (資) 道の駅の災害に備える施設・設備 道の駅の災害に対する備えを実際に見学したり、総合防災訓練の動画を見返したりすることにより、様々な備えに目を向けられるようにする。	
	板野町は、どのような思いで、総合防災訓練の参加を地域の人たちに呼びかけているのだろう。 【判断を求める問い】自分たちの安全を守るために、行動すべきことは何だろう？			
	みんなです話そう	⑩防災訓練について調べよう。(本時) ◆共助・自助の必要性を捉え、自分たちはどのように行動していきかについて考え主張している。(思・判・表)	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅の防災設備や訓練の内容を知ってほしいんじゃないかな。 コロナ禍で住民は参加はできないけど、実際に動けるようにしたいんじゃないかな。 町で行う防災訓練では、参加する住民は2200人(16%)くらいなんだって。 阪神・淡路大震災では、共助・自助の働きが97.5%だったね。 防災訓練の参加を呼びかけて、住民の意識を高めたんだね。 防災訓練に参加して、自分たちも協力したいな。 自分の命を自分たちで守れるように、自分にできることを考えたいな。	(資) 道の駅の写真・訓練の内容 (資) 防災訓練参加率を表したグラフ (資) 阪神・淡路大震災時の救助を表したグラフ 話し合いの際に、阪神・淡路大震災時の救助を表したグラフを提示することで、共助・自助の大切さに気付くことができるようにする。
	ひろげ深める	⑪地震に備え、自分のできることを考え防災ブックをつくらう。	我が家の防災ブックを作らう。 <ul style="list-style-type: none"> 地震が起きる前にできることは、避難訓練に参加することだね。 もし、地震が起きたときは、声をかけあって避難しよう。 ふだんから、近所の人とあいさつをしてつながっていたいな。 家族と相談して、非常持ち出し袋に入れるものを考えたいな。 	地震災害から人々の命を守るためには、県や町、地域、自分たちの協力が必要であることに気付くことができるように関係図にまとめる。
	⑫地震に備え、自分のできることを考え防災ブックをつくらう。	我が家の防災ブックを作らう。 <ul style="list-style-type: none"> 地震が起きる前にできることは、避難訓練に参加することだね。 もし、地震が起きたときは、声をかけあって避難しよう。 ふだんから、近所の人とあいさつをしてつながっていたいな。 家族と相談して、非常持ち出し袋に入れるものを考えたいな。 	地震が起きる前と起きたときに自分にできることを考えさせ、防災ブックにまとめられるようにする。	

6 本時の指導について

本時のポイント	板野町が、どのような思いで道の駅での総合防災訓練の参加を地域の人々に呼びかけているのかを考える中で、判断を求める問いを投げかけることにより、地域（共助）・自分たち（自助）の必要性を捉えられることができるか。
----------------	---

(1) 本時の目標

板野町が、どのような思いで道の駅での総合防災訓練への参加を地域の人々に呼びかけているのかを考えることを通して、共助・自助の必要性を捉え、自分たちにできることを考える。

(2) 本時の展開

…本時のめあて …子どもの意識 …教師の問いかけ・働きかけ は資料

子どもの意識の流れ	学習活動及び ◇指導・支援 ◆評価
道の駅での総合防災訓練ではどんなことをしていたかな。	<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。 ⑤</p> <p>◇ 役場の人の話を紹介することにより、本時の学習問題をつかむことができるようになる。</p> <p>◇ 「新しくできた道の駅いたので、コロナ禍なのに、なぜ訓練を行ったのだろう。」と問うことにより、道の駅が災害拠点となっており、防災訓練の必要性を問いかけようとする役場の担当者の思いに迫ることができるようにする。</p> <p>2 本時のめあてを確認し、役場の人の話をもとに、防災訓練の意味について考え話し合う。 ⑬</p> <p>◇ 話し合いに応じて、「総合防災訓練には自衛隊や県や町が参加しているから、町民の参加は呼びかけなくてもいいんじゃないのかな？」と問い返すことにより、訓練の必要性（共助・自助）に気付くことができるようにする。</p> <p>◇ 話し合いの終盤に、町の防災訓練参加率・阪神・淡路大震災時の救助に関する資料を提示することにより、公助だけでなく、共助や自助が必要であることに気付くことができるようにする。</p> <p>3 訓練への参加率の資料をもとに、自分たちが行動すべきことを考える。 ⑮</p> <p>◇ 判断を求める問いを投げかけることにより、「自分たちが行動すべきこと」を主張できるようにする。また、役場の西川さんに防災訓練参加を呼びかけている意図について話してもらうことにより、共助・自助の大切さについて考えることができるようにする。</p> <p>4 本時の学習を振り返る。 ⑩</p> <p>◇ 書き出しを提示し、自分の考えの深まりに気付くことができるようにする。</p> <p>◆ 共助・自助の必要性を捉え、自分たちはどのように行動してくべきかについて考え、根拠をもって自分の意見を主張している。</p> <p style="text-align: right;">(思・判・表)</p> <p style="text-align: right;">【発言・ワークシート】</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・自衛隊・警察・消防の人たちの救助訓練 ・けがをした人を搬送する訓練 ・現場の様子がよくわかる映像をリアルタイムで放送する ・災害用トイレなどの体験 ・避難所運営訓練 <p style="text-align: right;">■道の駅の写真 ■訓練の内容</p>	
役場の西川さんが、「大規模災害を想定した訓練に、板野町の人たちも参加してほしかった。コロナ禍だから、参加してもらえず残念だった。」と言っていたよ。	
<p>板野町は、どのような思いで総合防災訓練の参加を地域の人たちに呼びかけているのだろう。</p>	
道の駅の防災設備や訓練の内容を知ってほしいと思うよ。	
自衛隊や県や町が訓練しているから町民に訓練参加を呼びかけなくてもいいんじゃない？	
訓練の内容を見て意識を高めていってほしいんだよ。	
いつもは自主防災組織の人にはあまり入ってもらわないのに、今回はしっかり入ってもらったのはなぜかな？	
災害が起こったときに、地域の人が協力して命を守るようにしてほしいんだよ。	
コロナで参加はできないけど、リアルタイムで流して、訓練の内容を見てもらって実際に行動できるようにしてほしいと思ってるんじゃないかな。	
コロナ禍だけど、訓練はしておかないといけないと思っているんだよ。	
■阪神・淡路大震災の資料 ■参加率を表したグラフ	
自分たちの安全を守るために、行動すべきことは何だろう？【判断を求める問い】	
訓練の内容を知って、いざというときに自分の命が守れるように家の人にも話したいな。	
いざというときに身を守るのは地域の人たちの協力のおかげだから、日頃からあいさつをしていきたい。	
県や町が協力していても命を守れないことがあるから自分で命を守る方法を家族で考えたいな。	
今はコロナ禍だから訓練に参加できなくても、自分の命を守る方法を考えていきたいな。	
役場の西川さんに話を聞いてみよう。	
県や板野町でできることには限界があります。そのためには、地域の人たちの協力や、住民一人ひとりの意識が大切になってきます。住民の人たちには、防災訓練に参加し、いざというときに備え、「自分の命は自分で守る」「地域で協力して、自分たちの命を守る」ことができるようにしてほしいと思っています。	
県や町、地域、自分たちが協力して地震の被害から命を守ることが大切だね。自分にできることを考えていくことが大事だね。	